



「神戸ヒヨコ登山会 平成31年度定時総会」 ごあいさつ

会長 吉野 宏

皆様、お早うございます。

「神戸ヒヨコ登山会 平成31年度定時総会」
によるこそお越し下さいました。

166名の会員様にご出席を頂いているとの報告がございましたが、誠に有難うございます。お渡し致しております総会次第の冊子2ページ目に、平成25年度からの参加数比較が載っており、これをご覧いただきますと毎年参加数が増加。会員の皆様の、会に対するご関心とご協力がいかに厚いかがお分かりいただけると存じます。



ご参加頂き、本当にありがとうございます。

先生方には、それぞれのお立場におかれまして、統一選挙のご準備や、年度末での大変多忙な時にも拘りませず、ご臨席下さいまして誠に有難うございます。

又 平素は、何かとご相談事にお耳を傾けて頂いておりますこと、各山筋共に、心より感謝を致しております。この場をお借りし厚く御礼を申し上げます。

さて平成23年9月、前会長の桜井長登志氏急逝により突然バトンを受け継いで、早満7年の歳月が過ぎ去りました。受け継いだ翌年が、いきなり創立90周年という節目の年であり、会の責任者という重厚に押しつぶされそうになりましたが、各役員始め、会員の皆様の絶大なる協力でもって無事乗り越えることが出来ました。

平成25年から29年までの4年間は、ヒヨコがあまり取り組んでいなかったインターネットによるホームページのリニューアル化や会報のリニューアル化。年間50回以上行う行事企画充実への取り組みなど、これも又、皆様のご協力によって改革・改善を図ることが出来ました。平成29年は創立95周年であり、その記念として、発祥の地・再度山大龍寺山門下にヒヨコのレリーフを建立、手作りのお披露目式典も無事こなし、5年毎に行っている物故者慰霊祭も多くの会員各位にご参加頂いて盛大に行うことが出来ました。

私の手元に、過去 7 年間 7 回行った総会時のご挨拶の綴りがございます。目を通してありますと、色々な思い出がよみがえり、同時に月日の経過の速さに驚かされます。そして、ご挨拶の中で再三申し上げている言葉に「ヒヨコの絆」が出てまいります。

会員と会員の結びつき、支え合いや助け合いを意味する「ヒヨコの絆」は、大正 11 年の創立から全ての会員がこの「絆」の意味をよく理解され、培ってきたからこそ、今のヒヨコが存在しているといっても過言ではないのです。

高齢化が拍車をかけ、やむなく会を閉じる登山会も出てきており、神戸の生活文化である「毎日登山」にも影響を及ぼしてきている昨今ではありますが、私達の会ヒヨコは、この 7 年間一貫して「次代を継承してくれる新しい仲間づくり」を合言葉に、日々努力してまいりました。その結果、60 名近い、若く新しい仲間の入会を得、「ヒヨコ・ニューサークル」のネーミングのもとに高齢化に歯止めをかける仕掛けが誕生したのです。

過日、ある集会に参加させて頂いた時、耳にした「繋（つなぐ・つなげる・つながる）」という言葉が大変印象に残りましたので「絆」という言葉との関係をご披露し、加えて新しい仲間の入会を得る努力をお願いして、本日の総会のごあいさつとさせていただきます。

「絆」という言葉が誕生するには「つなぐ努力・つなげる努力が欠かせません。

その努力を行ってこそ、つながる結果が生まれ、そこから人と人の結びつき・支え合いや助け合いの中から互いの厚い信頼関係が生まれ、「固い絆」となっていくことを今一度ご理解いただき、本年も「私たちの会・ヒヨコの次代を継承してくれる新しい仲間づくり」にご努力・ご協力をお願いし、ごあいさつと致します。

めざせ 100 年 元気なヒヨコ！

3 年後の創立 100 周年を皆様と共に迎えようではありませんか。

有難うございました。

平成 31 年 3 月 3 日